

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

山 口 県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	長門市立深川中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	15	26
生徒数	114	136	159	3	412	

研究の概要

1. 研究主題

自らの生き方を考え、主体的に学ぼうとする生徒の育成
～生き方指導を軸に、個に応じたきめ細やかな指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科で実施
全教職員による研究実践を進め、その成果をお互いに共有するため。

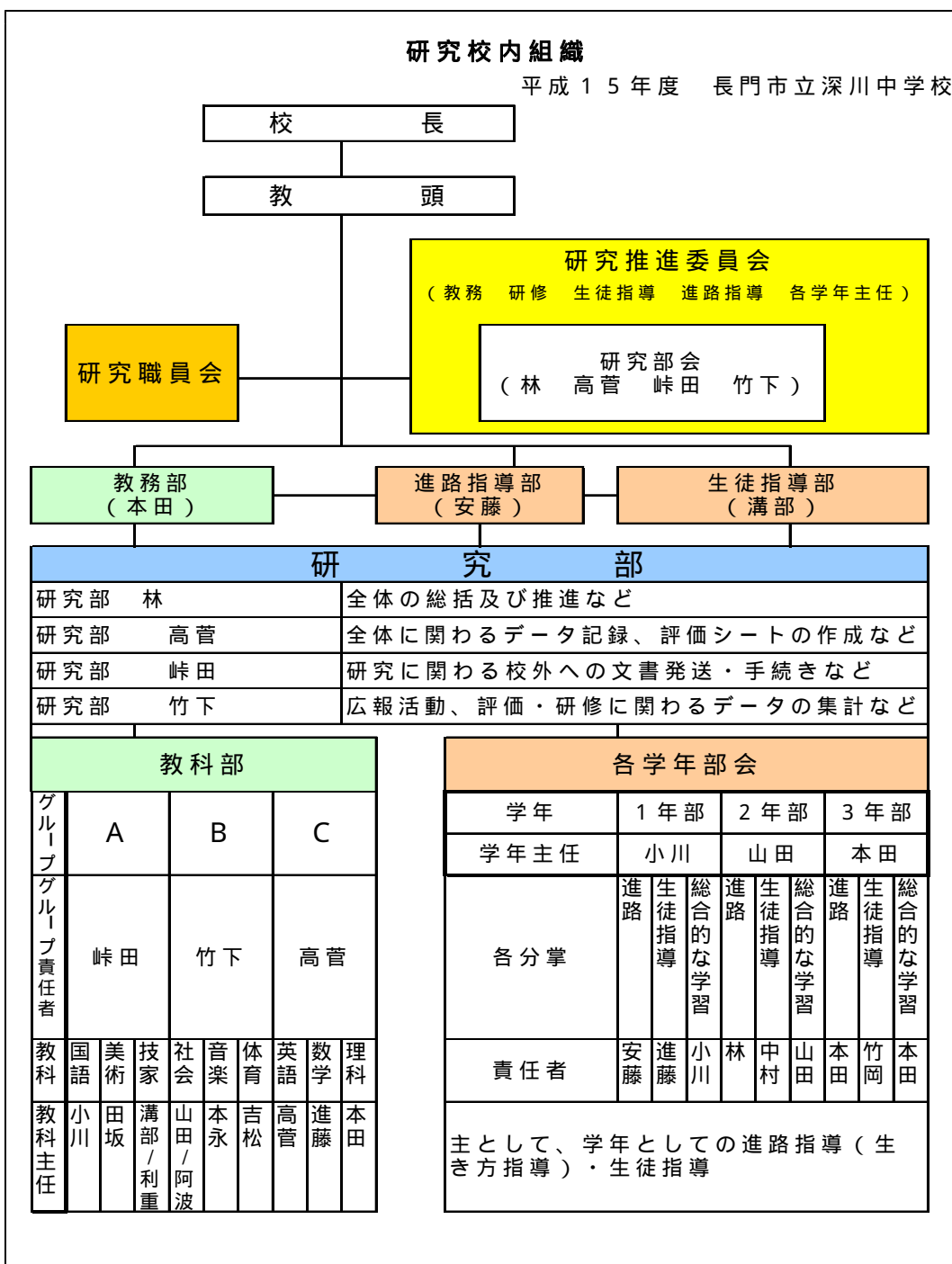
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生き方指導を軸に、指導と評価の一体化を図りながら個に応じたきめ細やかな指導の実践研究を進めることで、自らの生き方を考え、主体的に学ぼうとする確かな学力を身につけさせる。</p> <p>研究の見通し 各教科グループの研究テーマの決定と年間研究計画の作成 研究授業と生徒による授業評価の検討による授業改善に向けての研究 夏季休業中の「学力向上セミナー」の実践研究 本年度の研究の成果と今後の課題の考察 15年度研究紀要の作成</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1 研究の内容 少人数指導やT・Tを取り入れた指導方法の研究 生徒の授業評価を生かした授業改善の仕方の工夫 個に応じた指導改善の研究 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材開発の研究 公開授業などを通しての成果の普及</p> <p>2 具体的な方法 教科グループごとによる実践研究 教科グループA「グループ・コース分けなどによる個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」 ・ 国語：単元における事前意識調査を行い、生徒の意欲度・関心度をつかみ、個に応じた支援をT・Tで行ったり、グループ学習の中で行ったりする。 ・ 美術：単元ごとに事前にアンケートをとり、例えば3つのコース(チャレンジ・スタンダード・アドバイス)などに分け、それぞれのコースにリーダーを設定する。教材の工夫については、個に応じた発展的なものを準備していく。 ・ 技家：個人の興味・関心、技術能力などの事前調査により、生徒の実態を的確に把握し個に応じた支援方法を探る。(グループ編成によ</p>
--------	--

	<p>る学習形態の工夫) 教科グループB「生徒の授業評価を生かした指導方法の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会：生徒の授業評価をもとに授業改善を図るとともに教科の特性を生かした授業形態・教材等について研究する。 ・ 保体：生徒の技能や体力に応じたグループ構成や授業形態の工夫をする。 ・ 音楽：生徒の個々の能力（特に表現）に応じ、さらにその力を伸ばすための指導方法の工夫や個人評価表を用いた指導の工夫を行い、生徒の興味・関心を高めるための指導方法の研究を行う。 <p>教科グループC「少人数指導やT・Tによる個に応じた指導のための指導方法の工夫と改善」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語：均質または習熟度別の少人数クラスで授業を行う。（2クラスを3クラスへ分ける。）また、教材によって指導形態を変える。（ALT以外にGTを活用するなど） ・ 数学：均質または習熟度別の少人数クラスでの授業を行い、習熟度別の少人数クラスでは、生徒の実態に応じて発展的な学習・補足的な学習を取り入れた授業を展開していく。 ・ 理科：生徒の自己評価を活用して授業改善の研究を行う。2年では、週1時間T・Tによる授業を行い、発展的な学習や補充学習を取り入れる。 <p>学力向上セミナーによる個に応じた指導の実践研究 生徒に、学びの楽しさを実感させ、学ぶ意欲を高めさせることを目的に、夏季休業中に、発展的・補足的な学習を中心とした講座を（21講座）用意し、生徒に自主的に参加させる。このとき、部活動やその他の活動はできるだけ控え、生徒が参加しやすい体制を整える。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 生き方指導を軸に、指導と評価の一体化を図りながら個に応じたきめ細やかな指導の実践研究を進めることで、自らの生き方を考え、主体的に学ぼうとする確かな学力を身につけさせる。</p> <p>研究の見通し 各教科グループの研究の重点項目の決定と年間研究計画の作成 研究授業と生徒による授業評価の検討による授業改善に向けての研究 夏季休業中の「学力向上セミナー」の実践研究 本年度の研究の成果と今後の課題の考察 16年度研究紀要の作成</p> <p>研究の内容・方法 少人数指導やT・Tを取り入れた指導方法の研究 生徒の授業評価を生かした授業改善の仕方の工夫 個に応じた指導改善の研究 発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導のための教材開発の研究 公開授業などを通しての成果の普及 具体的には、15年度と同じように教科グループを3つに分け、グループごとに課題を重点化して研究を進めていく。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

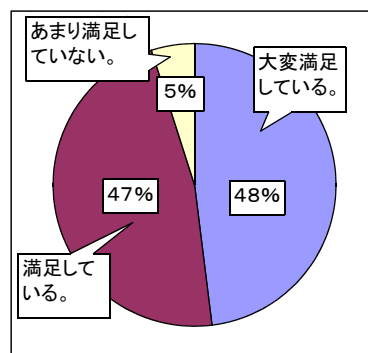


平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- 1 少人数指導やT・Tを取り入れた指導方法の研究
 - ・ 英語・数学では習熟度別クラス編成（2学級を基礎・標準・発展コースに分ける）によって、個々の生徒の学力に応じた指導を組み立てたり、支援の機会がより多くとれるようになったりした。例えば、数学において、基礎コースでは繰り返し練習して定着を図ったり、発展コースでは多様な見方・考え方を探ったりすることができるなど、少人数でしかも習熟度別であることから、教師側はこれまで以上に扱う内容や課題を絞ることができ、工夫しやすいところがあった。また、関数電卓・コンピュータや教材提示装置などの視聴覚機器の活用をしたり、グループによる問題解決学習などもできた。

- ・ T・Tによる指導では、学習内容の理解度が低い生徒には内容をより具体化して教材提示すると学習意欲の向上がみられ、理解度の高い生徒には課題追求型による学習方法で意欲の高揚がみられた。例えば、理科の工ナメル線を使った電磁石作成の課題学習では、生徒の学力に応じて、助言の仕方を変えるなどの工夫をしたところ、97%の生徒が「教師一人よりもT・Tの方がよく分かった」と答えた。
- 2 生徒の授業評価を生かした授業改善の仕方の工夫の研究
 - ・ 生徒の授業評価を生かせば、生徒にとっては次の学習の目当てがはっきりし、また教師にとっては指導の改善点や、一人一人への支援のあり方を捉える材料になり、個に応じた指導の一助とすることができる。なお、授業評価の内容は、教科によって表現や内容に違いがあるものの、自己評価の項目が中心であり、その評価を生徒と教師が共有できるように配慮した。
- 3 個に応じた指導改善の研究
 - ・ 技術家庭科などの実習を伴う教科では、少人数グループ(2~4人)で学習を推進すると、生徒自身では把握しにくかった経験不足などによる課題や学習の進め方が明確になり、お互いのよさや改善点が気軽に助言でき、けがへの配慮もできるようになった。
- 4 発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導のための教材開発の研究
 - ・ 夏季休業中に発展的・補足的な内容で下記の21講座開設した「学力向上セミナー」では、一人平均一講座を選択して学習に取り組んだ。どの講座も生徒の自己選択による受講ということもあり、ほとんどの生徒が「学力向上セミナー」に満足感を得ているようである。「あまり満足していない」と答えた生徒の理由も「もっとやりたかったから」であった。また、通常では学習できない課題、生徒の興味・関心のある題材を扱ったセミナーを開講するために、人材バンクを活用してゲストティーチャーを招いたり、図書館などの施設を活用したりしたことが生徒の満足度に影響しているように思う。



講座名	受講者数	講座名	受講者数
火星や星座の観察	16	説得力のある感想文	47
昆虫採取と観察	4	句会を開こう	18
自由研究の相談と支援	24	漢字の旅	17
只の浜ネイチャーゲーム	30	社会課題研究	23
数学史探訪	12	美術ポスター構想	17
数学オリンピック	11	託児所訪問	10
数学基礎講座	4	涼しい昼食づくり教室	11
統計グラフは語る?	11	夏バテ防止ドリンクづくり	22
英語で歌おう	1	ストロボ写真に挑戦	5
英語に強くなろう	44	かな削りの達人になろう	17
英会話~とっさの一言~	12	カエルになろう	17
隷書を書こう	1	延べ受講者数	374名

- 5 その他
 - ・ 教科グループ内での授業研究後の話し合いなどにより、所属している教科の同一歩調での研究推進が図られるようになってきた。

2. 今後の課題

H15年12月に行った生徒を対象とした学校評価の質問項目「学校の授業は今日の学習する目標がよくわかり、自分で考えたりやる気がわいたりすると感じていますか」では、49.6%、また、保護者を対象にした質問項目「家庭で、授業がよくわかるか」といっていますか」では42%という低い評価結果であった。残念ながら数値として満足のいく結果が現れていないといえよう。今回は最初の評価結果であるため、学力向上に向けた取組によって、どの程度の成果が、表れてきたのかをこの結果からはっきりと把握することは難しいが、生徒の立場からみたときに、まだ十分にわかる授業を受けているとは感じていないことがわかった。少人数やT・Tなどの指導体制づくりだけでは、個に応じたきめ細かな指導や支援

ができたことにはならず、授業そのものの質を向上させなければならないであろう。少人数指導については、コース分け時に、友達との人間関係から必ずしも習熟度別にならなかったのがこの点も解決していかなければならない。また、理解が十分でない生徒には、放課後や夏休みを使った補充学習を実施する必要もあろう。とにもかくにも、この結果を厳しく受け止め、来年度は確かな学力向上に資する授業がより多く提供できるよう次の点を重点的に研究実践を深めていきたい。

- ・授業評価をもとにした授業改善のためのねばり強く継続した取組
- ・生徒の興味・関心、発想をもとにした教材開発
- ・教師の担当教科における指導技術の向上
- ・授業以外の時間での発展的・補足的な学習の教材開発と実施方法の研究
- ・少人数指導における生徒のコース分け時の支援のあり方

また、本校のもう一つの大きな柱としての取組である様々な生き方指導の充実とこれらを総合単元化し、教材の精選と重点化を図りながら、知の統合化を進めていくことも課題である。すなわち、総合的な学習、進路指導、人権教育、ボランティア活動、性教育について、総合単元科された全体計画を作成し、教科で学んだ知識などを「生きるための知恵」として統合化させるとともに、学ぶことの意義を自覚し、学習意欲をより高めることをねらいとして取り組んでいきたい。

学力把握のための学校としての取組

- ・生徒の学力を捉えるために、評価基準表に基づいた単元末テスト・定期テスト（年5回）を実施する。
- ・生徒の学びの意欲や授業内容の理解度を捉えるために、生徒の授業評価（自己評価、授業そのものについての評価）を単元ごと、または学習内容終了後に実施する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・学校ホームページによる研究成果の発信（現在準備中）
- ・教育実践のあゆみ（長門市教育委員会編）への寄稿
- ・15年度研究紀要作成による研究成果の普及
- ・研究授業の公開（本年度は全教科でのべ16回実施、校区内の小学校、保護者、学校評議員、教育委員へ案内）
- ・全学年・全学級における公開授業を2回実施、山口県新規採用高等学校教員研修会（11月、授業のみ）及び福岡県筑紫地区教頭会研修会（1月、授業及び研究実践の紹介）
- ・学力向上フロンティア事業地区協議会（2月10日、萩市立明倫小学校）で、研究発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】** 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】** 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】** 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】** 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】** 有 無